

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、β-1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はβ-1,3-1,6-グルカンである。	増粘安定剤
2	アガラーゼ			担子菌 (<i>Coliolum</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus Pseudomonas</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素
3	アクチニジン			マタタビ科キウイ (<i>Actinidia chinensis</i> PLANCH) の果肉より、搾汁して得られたもの、又はこれを、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは膜で濃縮して得られたものである。	酵素
4	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、クシノグリカン主成分とするものをいう。)		スクシノグリカン	細菌 (<i>Agrobacterium tumefaciens</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。	増粘安定剤
5	アシラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus ochraceus</i> , <i>Aspergillus melles</i>) の培養液より、水で抽出して得られたもの、冷時～室温時除菌したもの、又はこれより、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
6	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	ウリ、カボチャ、キャベツ、キュウリ若しくはホウレンソウより、搾汁して得られたもの、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時アセトンで処理して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Trichoderma lignorum</i>) 若しくは放線菌 (<i>Eupenicillium brefeldianum</i>) の培養液より、除菌後、濃縮して得られたものである。	酵素
7	L-アスパラギン		アスパラギン	植物性タンパク質を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギンである。	調味料 強化剤
8	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	発酵又は酵素法により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギン酸である。	調味料
9	アスペルギルステレウス糖たん白質 (アスペルギルステレウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		糸状菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。	製造用剤
10	α-アセトラクタートデカルボキシラーゼ	α-アセトラクテートデカルボキシラーゼ	リアーゼ	細菌 (<i>Bacillus subtilis</i> , <i>Serratia</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素
11	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-アデニル酸である。	強化剤
12	アナトー色素 (ベニノキの種子の被覆物から得られた、ノルビキシン及びビキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロテノイド カロテノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	ベニノキ科ベニノキ (<i>Bixa orellana</i> LINNE) の種子の被覆物より、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで抽出して得られたもの、室温時ヘキササン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたもの、又は熱時アルカリ性水溶液で抽出し、加水分解し、中和して得られたものである。主色素はビキシン及びノルビキシンである。黄色～褐色を呈する。	着色料
13	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ (<i>Linum usitatissimum</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時～温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
14	アミノペプチダーゼ			細菌 (<i>Aeromonas caviae</i> , <i>Lactobacillus casei</i> , <i>Lactococcus lactis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。	酵素
15	α-アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分解酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aureus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes latus</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) 若しくは放線菌 (<i>Thermomonospora viridis</i>) の培養液より、又は麦芽より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの若しくは濃縮したものの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
16	β-アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus polymyxa</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、又は麦芽若しくは穀類の種子より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの若しくは濃縮して得られたもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
17	L-アラニン		アラニン	タンパク質原料の加水分解又は発酵若しくは酵素法により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アラニンである。	調味料 強化剤
18	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	アカシア属植物 (<i>Acacia senegal</i> Willdenow 又は <i>Acacia seyal</i> Delile) の分泌液を、乾燥して得られた、又はこれを脱塩して得られた多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤
19	アラビノガラクトラン			マツ科セイヨウカラマツ (<i>Larix occidentalis</i> NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構成糖はガラクトース、アラビノース等) である。	増粘安定剤
20	L-アラビノース		アラビノース	アラビアガム、ガディガム、コーンファイバー又はテンサイのバルブ (シュガービートバルブ) の多糖類 (アラビナン等) を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-アラビノースである。	甘味料

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
21	L-アルギニン		アルギニン	タンパク質原料の加水分解により又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アルギニンである。	調味料 強化剤
22	アルギン酸	昆布類粘質物		褐藻類 (Phaeophyceae) より、温時～熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。成分はアルギン酸である。	増粘安定剤
23	アルギン酸リアーゼ			細菌 (Alteromonas macleodii, Flavobacterium multivolum, Pseudomonas, Xanthomonas) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素
24	アルミニウム	アルミ末		²⁷ Al	着色料
25	アントシアナーゼ			糸状菌 (Aspergillus oryzae, Aspergillus niger, Penicillium decumbens) の培養液より、又は麦芽若しくは穀類の種子より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの又はこれを冷時エタノール又は含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
26	イソアミラーゼ	枝切り酵素		細菌 (Bacillus, Flavobacterium odoratum, Pseudomonas amyloclavata) の培養液より、冷時～室温時除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたものである。	酵素
27	イソアルファー苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフムロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファー酸	ホップ	クワ科ホップ (Humulus lupulus LINNE) の雌花より、水、二酸化炭素又は有機溶剤で抽出し、熱処理して得られたものである。主成分はイソフムロン類である。	苦味料等
28	イソマルトデキストラナーゼ			細菌 (Arthrobacter) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素
29	イタコン酸	メチレンコハク酸		麹菌 (Aspergillus terreus) による澱粉又は粗糖発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はイタコン酸である。	酸味料
30	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ (Orza sativa LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤
31	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		糸状菌 (Aspergillus aculeatus, Aspergillus niger, Aspergillus phoenicis, Penicillium purpurogenum, Trichoderma) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素
32	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したものより、又はアカザ科サトウダイコン (Beta vulgaris LINNE var. rapa DUMORTIER) の糖液又は蜂蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。	強化剤
33	インベルターゼ	サッカラーゼ シュクラーゼ スクラーゼ		糸状菌 (Aspergillus aculeatus, Aspergillus awamori, Aspergillus niger)、細菌 (Arthrobacter, Bacillus) 又は酵母 (Kluyveromyces lactis, Saccharomyces cerevisiae) の培養液より、冷時～室温時菌体を回収して得られたもの、冷時～室温時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮して得られたもの、又はアセトン若しくはアルコールで処理し、イオン交換処理後、アセトン若しくはアルコールで処理及び透析除去したものである。	酵素
34	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類		グラム陰性細菌 (Alcaligenes) の培養液より、分離して得られた多糖類である。	増粘安定剤
35	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	クルクミン ターメリック色素	ウコン	ウコン (Curcuma longa Linné) の根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	着色料
36	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			ウルシ科ウルシ (Rhus verniciflua LINNE) の果実より、融解、さらして得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。	ガムベース 光沢剤
37	ウレアーゼ		アミダーゼ	乳酸菌 (Lactobacillus fermentum) 又は細菌 (Arthrobacter) の培養液を、室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたもの、又は濃縮し、微温時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
38	エキソマルトテトラオヒドラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (Pseudomonas stutzeri) の培養液より、室温時除菌し、膜で濃縮して得られたもの、又はこれをエタノールで処理して得られたものである。	酵素
39	エステラーゼ			動物の肝臓、魚類、糸状菌 (Aspergillus)、細菌 (Pseudomonas) 若しくは酵母 (Candida, Torulopsis) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの若しくは濃縮したもの、又は冷時～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
40	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを主成分とするものをいう。)			カンラン科エレミ (Canarium luzonicum A. GRAY.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分はβ-アミリンである。	増粘安定剤 ガムベース
41	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	塩水湖の塩水を、天日蒸散により濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離し、残りの液体をろ過したものである。主成分はアルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類である。	調味料
42	オソケライト	セレシン		ワックスシュールの髄脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC29～C53の炭化水素である。	ガムベース
43	オゾン			O ₃	製造用剤
44	オリゴガラクチュロン酸			「ペクチン」をペクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクチュロン酸の1～9量体の混合物からなる。	製造用剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
45	γ-オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか又は胚芽油より、室温時含水エタノール及びn-ヘキサン又はアセトンで分配した後、含水エタノール画分から得られたものである。主成分はステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルである。	酸化防止剤
46	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ (<i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時～温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。	製造用剤
47	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料
48	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。	製造用剤
49	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	天然の含水ケイ酸アルミニウムを精製したものである。	製造用剤
50	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子(カカオ豆)を発酵後、焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアントシアニンが熱により重合したものである。褐色を呈する。	着色料
51	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	カキノキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の果実を発酵後、焙焼したものより、温時含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。	着色料
52	花こう斑岩		麦飯石	花こう斑岩を洗浄、粉碎したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。	製造用剤
53	カシアガム (エビスグサモドキの種子を粉砕して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カッシャガム		マメ科エビスグサモドキ (<i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
54	カタラーゼ		オキシダーゼ	ブタの肝臓より、水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus foetidus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Penicillium amagasakiense</i>) 細菌 (<i>Micrococcus lyzodeikticus</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、温時溶菌後、除菌し、冷時～室温時濃縮して得られたもの、又はこれを冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
55	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			鋸屑、木片、ヤシ殻の植物性繊維質、重炭又は石油等の含炭素物質を炭化後、賦活化を行って得られたものである。	製造用剤
56	活性白土		不溶性鉱物性物質	「酸性白土」を、硫酸処理して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤
57	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	ガティノキ (<i>Anogeissus latifolia</i> Wallich) の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤
58	カテキン			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ベグアセンヤク (<i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール (<i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾留した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。	酸化防止剤
59	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲネスの培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものをいう。)		ブドウ糖多糖	アグロバクテリウム属菌 (<i>Agrobacterium biovar 1</i>) 又はリゾビウム属菌 (<i>Rhizobium radiobacter</i>) の培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものである。	増粘安定剤 製造用剤
60	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得られた、カフェインを主成分とするものをいう。)		カフェイン	アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子(コーヒー豆)又はツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又は二酸化炭素で抽出し、分離、精製して得られたものである。主成分はカフェインである。	苦味料等

既存添加物名簿記載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
61	カラギナン (イバラノリ、キリンサイ、ギンナンソウ、スギノリ又はツノマタの全藻から得られた、i-カラギナン、k-カラギナン及びl-カラギナンを主成分とするものをいう。)	カラギーナン カラゲナン カラゲナン カラゲニン			増粘安定剤
	加工ユーケマ藻類		ユーケマ	カラギナン(イバラノリ属(<i>Hypnea</i>)、キリンサイ属(<i>Euclima</i>)、ギンナンソウ属(<i>Iridaea</i>)、スギノリ属(<i>Gigartina</i>)又はツノマタ属(<i>Chondrus</i>)の藻類の全藻から得られた、i-カラギナン、k-カラギナン及びl-カラギナンを主成分とするものをいう。)の一つである。	
	精製カラギナン		紅藻抽出物	カラギナン(イバラノリ属(<i>Hypnea</i>)、キリンサイ属(<i>Euclima</i>)、ギンナンソウ属(<i>Iridaea</i>)、スギノリ属(<i>Gigartina</i>)又はツノマタ属(<i>Chondrus</i>)の全藻から得られた、i-カラギナン、k-カラギナン及びl-カラギナンを主成分とするものをいう。)の一つである。ショ糖、ブドウ糖、マルトース、乳糖又はデキストリンを含むことがある。	
	ユーケマ藻末		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属(<i>Euclima</i>)の全藻を、乾燥、粉碎して得られたものである。	
62	α-ガラクトシダーゼ	メリピアーゼ	カルボヒドラーゼ	糸状菌(<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Mortierella</i>)又は細菌(<i>Bacillus stearothermophilus</i>)の培養液より、室温時~微温時水、酸性水溶液若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの、冷時含水エタノールで処理したもの、又は除菌後、濃縮して得られたものである。	酵素
63	β-ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルボヒドラーゼ	動物の臓器より、冷時~微温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌(<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Penicillium multicolor</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、細菌(<i>Bacillus circulans</i> , <i>Streptococcus</i>)若しくは酵母(<i>Kluyveromyces fragilis</i> , <i>Kluyveromyces lactis</i> , <i>Saccharomyces</i>)の培養液より、冷時~室温時水で抽出して得られたもの、室温時自己消化処理して得られたもの、冷時~室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
64	カラシ抽出物 (カラシナの種子から得られた、イソチオシアネ酸アリルを主成分とするものをいう。)	マスタード抽出物		アブラナ科カラシナ(<i>Brassica juncea</i> LINNE)の種子の脂肪油を除いた圧搾粕より、水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はイソチオシアネ酸アリルである。	製造用剤
65	カラメルⅠ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅡ」、「カラメルⅢ」及び「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を、熱処理して得られたもの、又は酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を使用していないものである。	着色料 製造用剤
66	カラメルⅡ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、アンモニウム化合物を使用していないものである。	着色料
67	カラメルⅢ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物を使用していないものである。	着色料
68	カラメルⅣ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたものである。	着色料 製造用剤
69	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	カラヤ(<i>Sterculia urens</i> Roxburgh)又はキバナワタモドキ(<i>Cochlospermum gossypium</i> de Candolle)の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤
70	カルナウバロウ (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス ブラジルワックス	植物ワックス	ブラジルロウヤシ(<i>Copernicia prunifera</i> H. E. Moore (<i>Copernicia cerifera</i> Martius))の葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤
71	カルホキシペプチダーゼ			イネ科コムギ(<i>Triticum aestivum</i> LINNE)の種皮及び果皮(ふすま)より、酢酸水溶液で抽出したもの、又は糸状菌(<i>Aspergillus</i>)若しくは酵母(<i>Saccharomyces cerevisiae</i>)の培養液より、冷時~室温時水で抽出して得られたもの若しくは冷時~室温時濃縮し、冷エタノールで処理して得られたものである。	酵素
72	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉碎して得られたものをいう。)	カロブジャーム	カロブ フラボノイド フラボノイド色素	マメ科イナゴマメ(<i>Ceratonia siliqua</i> LINNE)の種子の胚芽を、粉碎して得られたものである。淡黄色を呈する。	着色料 製造用剤
73	カロブビンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビンガム	ローカスト	イナゴマメ(<i>Ceratonia siliqua</i> Linné)の種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
74	カワラヨモギ抽出物 (カワラヨモギの全草から得られた、カピリンを主成分とするものをいう。)		カワラヨモギ	キク科カワラヨモギ(<i>Artemisia capillaris</i> THUNB.)の全草より、室温時エタノール若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留して得られたものである。有効成分はカピリン等である。	保存料

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	
	名称	別名			
75	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキス グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fischer)、チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> Batalin)、ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> Linné)、又はそれらの近縁植物の根若しくは根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものである。本品には、粗製物と精製物がある。	甘味料
76	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎を水で洗浄した残渣より、室温時～温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤
77	カンデリラロウ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアコンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス キャンデリラロウ キャンデリラワックス	植物ワックス	カンデリラ (<i>Euphorbia antisiphilitica</i> Zuccarini 又は <i>Euphorbia cerifera</i> Alcoeer) の茎から得られた、ヘントリアコンタンを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤
78	キサントタンガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサントタン多糖類 ザンサンガム	キサントタン	キサントモナス属菌 (<i>Xanthomonas campestris</i>) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
79	キシラナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> reesei, <i>Trichoderma viride</i>) の培養液より、分離して得られたものである。	酵素
80	D-キシロース		キシロース	木材又はアオイ科ワタ (<i>Gossypium arboreum</i> LINNE)、イネ科イネ (<i>Orzyza sativa</i> LINNE)、イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) 若しくはイネ科トウモロコシ (<i>Zea Mays</i> LINNE) 又はその他同属植物の茎、実又は穀より、熱時酸性水溶液で加水分解し、分離して得られたものである。成分はD-キシロースである。	甘味料
81	キチナーゼ			糸状菌 (<i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>)、放線菌 (<i>Amycolatopsis orientalis</i> , <i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Aeromonas</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、濃縮し、硫酸アンモニウムで分画したもの、若しくはエタノールで処理したものから得られたものである。	酵素
82	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤
83	キトサナーゼ			細菌 (<i>Aeromonas</i> , <i>Bacillus</i>) 又は糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i> , <i>Verticillium</i>) の培養液より、除菌後、冷時～微温時濃縮したもの又はエタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	酵素
84	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤 製造用剤
85	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニンジン、キニーネ及びシンヨニンを主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ (<i>Cinchona succirubra</i> PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニーネ、キニンジン及びシンヨニンである。	苦味料等
86	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルペリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ (<i>Phellodendron amurense</i> RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルペリンである。	苦味料等
87	魚鱗箔 (魚類の上皮部から抽出して得られたものをいう。)			イワシ科マイワシ (<i>Sardinops melanosticta</i> TEMMINCK et SCHLEGEL)、タチウオ科タチウオ (<i>Trichiurus lepturus</i> LINNE) 又はニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> CUVIER et VALENCIENNES) の魚体の上皮部を採り、室温時水又は弱アルカリ性水溶液で洗浄後、室温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素は不明であるが、グアニンを含む。白色～淡黄灰色を呈する。	着色料
88	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	キラヤ (<i>Quillaja saponaria</i> Molina) の樹皮から得られた、サポニンを主成分とするものである。	乳化剤
89	金	金箔		¹⁹⁷ Au	着色料 製造用剤
90	銀	銀箔		¹⁰⁷ Ag, ¹⁰⁹ Ag	着色料
91	グァーガム (グァーの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ただし、「グァーガム酵素分解物」を除く。)	グァーフラワー グアルガム	グァー	グァー (<i>Cyamopsis tetragonoloba</i> Taubert) の種子から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。	増粘安定剤
92	グァーガム酵素分解物 (グァーの種子を粉砕し、分解して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グァーフラワー酵素分解物 グアルガム酵素分解物	グァー分解物	「グァーガム」を、酵素 (α -ガラクトシダーゼ、ヘミセルラーゼ) で分解して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
93	グァヤク脂 (ユソウボクの幹枝から得られた、グァヤコン酸、グァヤレチック酸及び β -レジン を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グァヤコン酸、グァヤレチック酸及び β -レジンである。	酸化防止剤
94	グァヤク樹脂 (ユソウボクの分泌液から得られた、 α -グァヤコン酸及び β -グァヤコン酸を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分は α -、 β -グァヤコン酸である。	ガムベース
95	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	「ルチン(抽出物)」を、酵素又は酸性水溶液で加水分解して得られたものである。成分はクエルセチンである。	酸化防止剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
96	クチナシ青色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill 又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis) の果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
97	クチナシ赤色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill 又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis) の果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
98	クチナシ黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 クチナシ クチナシ色素 クロシン	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill 又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis) の果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
99	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタハンカン (<i>Palaquium leiocarpum</i> BOERL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものであり得られたものである。主成分はトランスポリイソブレン及びアミリンアセタートである。	ガムベース
100	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ (<i>Palaquium gutta</i> BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものであり得られたものである。主成分はトランスポリイソブレンである。	ガムベース
101	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉碎乾燥、800~1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成したものである。	製造用剤
102	グルカナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時~微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時~室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は除菌後、硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
103	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i> , <i>Humicola grisea</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i>)、担子菌 (<i>Corticium rolfsii</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時~室温時水で抽出して得られたもの、冷時~室温時除菌後、濃縮したもの、冷時~室温時濃縮後、エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
104	グルコサミン			「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はグルコサミンである。	増粘安定剤 製造用剤
105	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		糸状菌 (<i>Absidia</i> , <i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時~室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時~室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
106	β-グルコシダーゼ	ゲンチオピアラーゼ セロビアラーゼ		ソテツ科ソテツ (<i>Cycas revoluta</i> THUNB.) より、冷時~微温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Penicillium decumbens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時~微温時水で抽出して得られたもの、冷時~室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
107	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		細菌 (<i>Agrobacterium radiobacter</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Erwinia</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Protaminobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia</i> , <i>Thermus</i>) の培養液又はバレイショ (<i>Solanum tuberosum</i> LINNE) の塊茎より、冷時~室温時除菌したもの、冷時水で抽出して得られたもの、又は冷時~室温時濃縮して得られたものである。なお、基質特異性により、4-α-グルカノトランスフェラーゼ、6-α-グルカノトランスフェラーゼと呼ばれるものがある。	酵素
108	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオイドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	『ステビア抽出物』に、α-グルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。α-グルコシルステビオイドを主成分とする。	甘味料
109	グルコースイソメラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i>)、放線菌 (<i>Actinoplanes missouriensis</i> , <i>Streptomyces griseofuscus</i> , <i>Streptomyces murinus</i> , <i>Streptomyces phaeochromogenes</i> , <i>Streptomyces rubiginosus</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus coagulans</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
110	グルコースオキシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～微温時溶菌後、除菌したもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
111	グルタミナーゼ		アミダーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
112	L-グルタミン		グルタミン	糖類を原料とした発酵により得られたものから分離して得られたものである。成分はL-グルタミンである。	調味料 強化剤
113	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ 種子	ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.) の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。	製造用剤
114	クローロ色素 (ソメモノイモの根から抽出して得られたものをいう。)	ソメモノイモ色素	フラボノイド フラボノイド色素	ヤマノイモ科ソメモノイモ (<i>Dioscorea matsudai</i> HAYATA) の根より、熱時水、弱アルカリ性水溶液若しくはプロピレングリコールで抽出したもの、又は室温時含水エタノールで抽出して得られたものである。赤褐色を呈する。	着色料
115	クローブ抽出物 (チョウジのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ (<i>Syzgium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。	酸化防止剤
116	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。	着色料
117	クロロフィル		葉緑素	緑色植物より得られた、クロロフィル類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	着色料
118	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)		スモークフレーバー		製造用剤
	木酢液			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、乾溜して得られたものである。	
	リキッドスモーク			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、限定された空気存在下で、燃焼して発生したガス成分を捕集して得られたものである。	
119	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	ケイソウ土に由来する二酸化ケイ素で、乾燥品、焼成品及び融剤焼成品があり、それぞれをケイソウ土 (乾燥品)、ケイソウ土 (焼成品) 及びケイソウ土 (融剤焼成品) と称する。焼成品は、800～1,200℃で焼成したものであり、融剤焼成品は、少量の炭酸のアルカリ塩を添加して800～1,200℃で焼成したものである。融剤焼成品のうち酸洗用品については、焼成品の規定 (性状を除く) を準用する。	製造用剤
120	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロンドを主成分とするものをいう。)			リンドウ科ゲンチアナ (<i>Gentiana lutea</i> LINNE) の根又は根茎より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はゲンチオピクロンド (ゲンチオピクリン) 及びアマロゲンチンである。	苦味料等
121	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	動植物性油脂又は動植物性硬化油脂より、加水分解したものより得られたものである。	製造用剤
122	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジョウ)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリ	苦味料等
123	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、 α -グルコシルイソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエルシトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン酵素分解物」とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルイソクエルシトリンである。	酸化防止剤 強化剤
124	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、 α -グルコシルナリンジンを主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分は α -グルコシルナリンジンである。	苦味料等
125	酵素処理ヘスペリジン (「ヘスペリジン」にシクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものをいう。)	糖転移ヘスペリジン 糖転移ビタミンP	ヘスペリジン	柑橘類の果皮、果汁、又は種子より、アルカリ性水溶液で抽出して得られるヘスペリジンに、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。	強化剤
126	酵素処理ルチン (抽出物) (「ルチン (抽出物)」から得られた、 α -グルコシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン (抽出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン (抽出物)」とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを α -1,4付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルルチンである。	酸化防止剤 強化剤
127	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジルグリセロールを主成分とするものをいう。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」とグリセリンの混合物に、ホスホリパーゼDを用いて得られたものである。主成分はホスファチジルグリセロールである。	乳化剤
128	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリチルレチン酸-3-グルクロニドを主成分とするものをいう。)		カンゾウ	「カンゾウ抽出物」を、酵素分解して得られたものである。主甘味成分はグリチルレチン酸-3-グルクロニドである。	甘味料
129	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	バラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) の果実を搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵素処理し、精製して得られたものである。有効成分はクロロゲン酸及びカテキン類である。	酸化防止剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	
	名称	別名			
130	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン アブラナ (<i>Brassica rapa</i> Linné) 又は <i>Brassica napus</i> Linné) 若しくはダイズ (<i>Glycine max</i> Merrill) の種子から得られた植物レシチン又は卵黄から得られた卵黄レシチンから得られた、ホスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものである。酵素分解植物レシチンと酵素分解卵黄レシチンがある。	乳化剤	
131	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	酵母細胞膜		サッカロミセス属菌 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤 製造用剤
132	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アピゲニニン及びビルテオリニンを主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	イネ科コウリヤン (<i>Sorghum nervosum</i> BESS.) の実及び穀より、温時～熱時水、含水エタノール若しくは酸性含水エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時～温時アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアピゲニニン及びビルテオリニジンである。赤褐色を呈する。	着色料
133	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	エンジムシ (<i>Dactylopius coccus</i> Costa (<i>Coccus cacti</i> Linnaeus)) から得られた、カルミン酸を主成分とするものである。	着色料
134	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			ウシ (<i>Bos taurus</i> Linné) の骨を、炭化し、粉碎して得られたものである。主成分はリン酸カルシウム及び炭末である。	製造用剤
135	骨炭色素 (骨を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE var. <i>domesticus</i> GEMEL.) 等の骨を、炭化した物である。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料
136	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	ゴマ科ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の種子又は種子の搾油槽より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。	酸化防止剤
137	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の茎又は葉を灰化し、室温時水で抽出し、上澄み液をろ過して得られたものである。	製造用剤
138	ゴム (バラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		トウダイグサ科バラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを酸性水溶液で凝固させ、水洗、脱水したのより得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。	ゴムベース
139	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られた低分子の樹脂状物質である。主成分はC20～C40のテルペノイドである。	ゴムベース
140	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分とするものをいう。)	コメヌカ油不けん化物		イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油の不けん化物より、エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はフェルラ酸である。	酸化防止剤
141	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィチン酸及びペプチドを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。	酸化防止剤
142	コメヌカろう (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	コメヌカワックス ライスワックス	植物ワックス	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油より、分離して得られたものである。主成分はリグノセリン酸ミリスルである。	ゴムベース 光沢剤
143	サイリウムシードガム (フロンドサイリウムの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	フロンドサイリウム (<i>Plantago ovata</i> Forsskal) の種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
144	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) の茎の搾汁残渣より、分離、精製して得られたものである。主成分はパルミチン酸ミリスルである。	ゴムベース
145	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシードガム サバクヨモギ種子多糖類		キク科サバクヨモギ (<i>Artemisia halodendron</i> TURCZ. ex BESS., <i>Artemisia ordosica</i> KRASCHEN., <i>Artemisia sphaerocephala</i> KRASCH) の種子の外皮を、脱脂、乾燥して得られたものである。主成分は、 α -セルロースを基本骨格に持つ、中性多糖類及び酸性多糖類である。	製造用剤 増粘安定剤
146	酸性白土		不溶性鉱物性物質	モンモリロナイト系粘土鉱物を精製して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤
147	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～温時水で抽出し、除菌した後、冷時～室温時濃縮し、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
148	酸素			0 ₂	製造用剤
149	シアナット色素 (シアノキの果実又は種皮から抽出して得られたものをいう。)		シアナット フラボノイド フラボノイド色素	アカテツ科シアノキ (<i>Butyrospermum parkii</i> KOTSCHY.) の果実又は種皮より、室温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。褐色を呈する。	着色料
150	シアノコバラミン	ビタミンB ₁₂	V. B ₁₂	放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium</i> , <i>Propionibacterium</i> 又は <i>Rhizobium</i>) の培養液より、分離して得られたものである。成分はシアノコバラミンである。	強化剤
151	シェラック (ラックカイガラシの分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラール酸のエステルを主成分とするものをいう。)	セラック		ラックカイガラシ (<i>Laccifer</i> spp.) の分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラール酸のエステルを主成分とするものである。白シェラック及び精製シェラックがあり、ロウ分を除去していない含ロウ品及びロウ分を除去した脱ロウ品がある。	ゴムベース 光沢剤

既存添加物名簿記載品目リスト

番号	品名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名		
	白セラック	白セラック 白ラック	カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、温時アルカリ性水溶液で抽出し、漂白したもので得られたものである。主成分はアレウリチン酸とジャラール酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエステル等である。	
	精製セラック	精製セラック	カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノールで抽出又は温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はアレウリチン酸とジャラール酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエステル等である。	
152	セラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ろう分を主成分とするものをいう。)	セラックロウ	カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノール又は温時アルカリ性水溶液に溶解し、ろ液からろう分を分離して得られたものである。主成分は樹脂酸エステルである。	ガムベース 光沢剤
153	ジェランガム (シュドモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ジェラン多糖類	ジェラン	増粘安定剤
154	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ボンチアナック	キョウチクトウ科ジェルトン (<i>Dyera costulata</i> HOOK F., <i>Dyera lowii</i> HOOK F.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
155	シクロデキストリン	サイクロデキストリン 分岐サイクロデキストリン 分岐シクロデキストリン	環状オリゴ糖	製造用剤
156	シクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ	シクロデキストリン グルコシルトランスフェラーゼ	トランスフェラーゼ	酵素
157	L-シスチン		シスチン	調味料 強化剤
158	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス	シソ科シソ (<i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものから得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤
159	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	着色料
160	5'-シチジル酸		5'-CMP	強化剤
161	ジャマイカカッシア抽出物 (ジャマイカカッシアの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カッシアエキス	カッシア	苦味料等
162	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジンゲロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物		製造用剤
163	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca	強化剤 製造用剤
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	
	貝殻焼成カルシウム		貝殻カルシウム 貝Ca	
	骨焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	
164	植物性ステロール (油糧種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	乳化剤
165	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	着色料
166	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		乳化剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
167	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	アイナメ (<i>Hexagrammos otakii</i> Jordan et Starks)、カラフトマス (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i> (Walbaum))、シロザケ (<i>Oncorhynchus keta</i> (Walbaum))、ベニサケ (<i>Oncorhynchus nerka</i> (Walbaum))、カツオ (<i>Katsuwonus pelamis</i> (Linnaeus)) 又はニシン (<i>Clupea pallasii</i> Valenciennes) の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものである。	保存料
168	水素			H ₂	製造用剤
169	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオサイド ステビオシド レバウジオシド レバウディオサイド	ステビア ステビア甘味料	ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> Bertoni) の葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものである。	甘味料
170	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉を、粉末としたものである。主甘味成分はステビオール配糖体 (ステビオシド及びレバウジオシド) である。	甘味料
171	スピルリナ色素 (スピルリナの全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> Geitler) の全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
172	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時～温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したもので得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。	乳化剤
173	生石灰			石灰石を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。	製造用剤
174	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシルシナビルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェネル抽出物		セリ科ウイキョウ (<i>Foeniculum vulgare</i> LINNE) の種子を水蒸気蒸留した残渣より、熱時水で抽出し、濃縮して得られたものである。主成分は4-O- α -D-グルコシルシナビルアルコールである。	酸化防止剤
175	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホーセラディッシュ抽出物		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i> P. GAERTN., B. MEYER et SCHERB.) の根を、粉砕後、水蒸気蒸留で抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。	酸化防止剤
176	ゼイン (トモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トモロコシたん白		イネ科トモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロラミンに属する植物性タンパク質である。	製造用剤
177	ゼオライト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られたものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩である。	製造用剤
178	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及びフェノール性ジテルペンを主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア (<i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド (ジテルペン) 及びカルノシン酸である。	酸化防止剤
179	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。	製造用剤
180	L-セリン		セリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-セリンである。	調味料 強化剤
181	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium cellulolyticus</i> , <i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Hemicola insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma insolens</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Corticium irpex</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Actinomycetes</i> , <i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus circulans</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
182	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化カリウムを主成分とするものをいう。)			海水を、濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離させた後、そのろ液を、室温まで冷却し、析出分離させたものである。主成分は塩化カリウムである。	調味料
183	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)	塩化マグネシウム含有物		海水より、塩化ナトリウムを析出分離し、その母液を冷却して析出する塩化カリウム等を分離した残りのものである。主成分は塩化マグネシウムである。	製造用剤
184	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤
185	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ペリージョ ペンダーレ レッツェカスピ		キョウチクトウ科ソルバ (<i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース
186	ソルピンハ (ソルピンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ソルバベケーニヤ		キョウチクトウ科ソルピンハ (<i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
187	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。	乳化剤
188	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		タウマトコッカス・ダニエリ (<i>Thaumatococcus daniellii</i> Benth) の種子から得られた、タウマチンを主成分とするものである。	甘味料
189	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	魚介類又は哺乳動物の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものである。	調味料
190	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	ユリ科タマネギ (<i>Allium cepa</i> LINNE) のりん茎より、温時～熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はクエルセチンである。黄色を呈する。	着色料
191	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子を焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。	着色料
192	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> Linné) の種子から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
193	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> Kuntze) の種子から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
194	タルク		不溶性鉱物性物質	天然の含水ケイ酸マグネシウムを精選したもので、ときに少量のケイ酸アルミニウムを含む。	ガムベース 製造用剤
195	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデソキシコール酸を主成分とするものをいう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	乳化剤
196	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	アミノ酸と単糖類の混合液を、常圧下で加熱して得られたものである。	酸化防止剤
197	タンナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は濃縮後、冷時～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
198	タンニン (抽出物) (カキの果実、五倍子、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。)	タンニン酸 (抽出物)	タンニン タンニン酸		製造用剤
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。	
	植物タンニン			五倍子、タラ末又は没食子から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものである。	
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ (<i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。	
199	チクル (サボジラの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	クラウンガム チクプル ニスベロ		アカテツ科サボジラ (<i>Achras zapota</i> LINNE) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
200	窒素			N ₂	製造用剤
201	チャ乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものをいう。)			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニン、カテキン類を含む。	製造用剤
202	チャ抽出物 (チャの葉から得られた、カテキン類を主成分とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出物 緑茶抽出物		ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶より、室温時、温時又は熱時、水、酸性水溶液、含水エタノール、エタノール、含水メタノール、メタノール、アセトン、酢酸エチル又はグリセリン水溶液で抽出したもので得られたものである。成分としてカテキン類を含む。なお、チャの葉の処理方法によりウーロンチャ抽出物と呼ばれるものがある。	酸化防止剤 製造用剤
203	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科チルテ (<i>Cnidioscolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
204	L-チロシン	L-チロジン	チロシン チロジン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-チロシンである。	調味料 強化剤
205	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ツヌー (<i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
206	ツヤプリシン (抽出物) (ヒバの幹枝又は根から得られた、ツヤプリシン類を主成分とするものをいう。)	ヒノキチオール (抽出物)	ヒノキチオール	アスナロ (ヒバ) (<i>Thuilopsis dolabrata</i> Siebold et Zuccarini) の幹枝又は根から得られた、ツヤプリシン類を主成分とするものである。	保存料
207	5'-デアミンナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
208	低分子ゴム (バラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソブレンである。	ガムベース
209	テオブロミン			アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子、アオギリ科コーラ (<i>Cola acuminata</i> SCHOTT et ENDL.) の種子又はツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又はエタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はテオブロミンである。	苦味料等
210	デキストラナーゼ			糸状菌 (<i>Chaetomium erraticum</i> , <i>Chaetomium gracile</i> , <i>Penicillium lilacinum</i>) の培養液より、冷時～室温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
211	デキストラン		ブドウ糖多糖	グラム陽性細菌 (<i>Leuconostoc mesenteroides</i> 又は <i>Streptococcus equinus</i>) の培養液より、分離して得られたものである。成分はデキストランである。	増粘安定剤
212	鉄			⁵⁴ Fe, ⁵⁶ Fe, ⁵⁷ Fe, ⁵⁸ Fe	強化剤 製造用剤
213	デュナリエラカロテン (デュナリエラの全藻から得られた、β-カロテンを主成分とするものをいう。)	藻類カロテン 藻類カロテン デュナリエラカロテン ドナリエラカロテン ドナリエラカロテン 抽出カロテン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	デュナリエラ (<i>Dunaliella bardawil</i> 又は <i>Dunaliella salina</i>) の全藻から得られた、β-カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	強化剤 着色料
214	銅			⁶³ Cu, ⁶⁵ Cu	製造用剤
215	トウガラシ色素 (トウガラシの果実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものをいう。)	カプシカム色素 パブリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	トウガラシ (<i>Capsicum annuum</i> Linné) の果実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	着色料
216	トウガラシ水性抽出物 (トウガラシの果実から抽出して得られた、水溶性物質を主成分とするものをいう。)	カプシカム水性抽出物 パブリカ水性抽出物	カプシカム抽出物 トウガラシ抽出物 パブリカ抽出物	ナス科トウガラシ (<i>Capsicum annuum</i> LINNE) の果実より、室温時含水エタノールで抽出したもので、タンパク質、ペプチド、ビタミンCを含む。	製造用剤
217	動物性ステロール (魚油又は「ラノリン」から得られた、コレステロールを主成分とするものをいう。)	コレステロール	ステロール	魚油の不けん化物又は「ラノリン」より、加水分解したもの、又は有機溶剤で抽出したものより得られたものである。主成分はコレステロールである。	乳化剤
218	トコトリエノール			イネ (<i>Oryza sativa</i> Linné) の米ぬか油、アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin) のパーム油等より分別精製して得られたものである。主成分はトコトリエノールである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤
219	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール α-トコフェロール ビタミンE V.E	油種子から得られた植物油又はミックストコフェロール (植物油から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。) より分離して得られた、d-α-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤
220	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール γ-トコフェロール ビタミンE V.E	油種子から得られた植物油又はミックストコフェロール (植物油から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。) より分離して得られた、d-γ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤
221	d-δ-トコフェロール	δ-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール トコフェロール δ-トコフェロール ビタミンE V.E	油種子から得られた植物油又はミックストコフェロール (植物油から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。) より分離して得られた、d-δ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤
222	トマト色素 (トマトの果実から得られた、リコピンを主成分とするものをいう。)	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド 野菜色素	トマト (<i>Lycopersicon esculentum</i> Miller) の果実から得られた、リコピンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	着色料
223	トラガントガム (トラガントの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		トラガント	トラガント (<i>Astragalus gummifer</i> Labillardière) の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤
224	トランスグルコシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus usami</i>)、細菌 (<i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
225	トランスグルタミナーゼ			動物の肝臓より、又は放線菌 (<i>Streptomyces</i> , <i>Streptoverticillium mobaraense</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、室温時水で抽出後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
226	トリプシン			動物の膵臓又は魚類若しくは甲殻類の臓器から得られた、たんぱく質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素
227	トレハロース			担子菌 (<i>Agaricus</i> 等)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Thermus</i> 等) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i> 等) の培養液又は菌体より、水若しくはアルコールで抽出して得られたもの、これを酵素によるでん粉の糖化液より分離して得られたもの、又はマルトースを酵素処理して得られたものである。成分はトレハロースである。	製造用剤
228	トレハロースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リゾチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	酵素

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
229	トロロアオイ (トロロアオイの根から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			アオイ科トロロアオイ (<i>Abelmoschus manihot</i> MED.) の根を、乾燥、粉碎して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
230	納豆菌ガム (納豆菌の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものをいう。)	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	納豆菌 (<i>Bacillus subtilis</i>) の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものである。	増粘安定剤 製造用剤
231	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。成分はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素である。	製造用剤
232	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、クロロゲン酸及びポリフェノールを主成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸酸性水溶液で抽出して得られたものである。有効成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。	酸化防止剤
233	ナリンジナーゼ	ナリンジナーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus usami</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
234	ナリンジン	ナリンギン		グレープフルーツ (<i>Citrus × paradisi</i> Macfadyen) の果皮、果汁又は種子より、水又はエタノール若しくはメタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はナリンジンである。	苦味料等
235	ニガーグッタ (ニガーグッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガーグッタ (<i>Ficus platyphyla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
236	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (<i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。	苦味料等
237	ニッケル			⁵⁸ Ni, ⁶⁰ Ni, ⁶¹ Ni, ⁶² Ni, ⁶⁴ Ni	製造用剤
238	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロテン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロチン色素	ニンジン (<i>Daucus carota</i> Linné) の根から得られた、カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	強化剤 着色料
239	ばい煎コマメカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤
240	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤
241	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i>)、アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus acanthiformis</i>) 若しくはキュウリ科キュウリ (<i>Cucumis sativus</i>) より搾汁したもの、又は糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Coprinus cinereus</i> , <i>Qidiodendron</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは冷時～室温時濃縮後、エタノールで処理して得られたものである。	酵素
242	白金			¹⁹² Pt, ¹⁹⁴ Pt, ¹⁹⁵ Pt, ¹⁹⁶ Pt, ¹⁹⁸ Pt	製造用剤
243	パパイン			パパイヤ (<i>Carica papaya</i> Linné) の果実より得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素
244	パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロチン色素	アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin) の果実から得られた、カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	強化剤 着色料
245	パーライト			鉱物性二酸化ケイ素を800～1,200℃で焼成したものである。	製造用剤
246	パラジウム			¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd	製造用剤
247	パラフィンワックス	パラフィン		石油の常圧及び減圧蒸留留油から得た固形の炭化水素の混合物で、主として直鎖状の飽和炭化水素からなる。	ガムベース
248	パンクレアチン			動物のすい臓より、室温時水で抽出し、冷時～室温時アセトンで処理して得られたものである。	酵素
249	ヒアルロン酸		ムコ多糖	鶏冠より、微温時～温時水、アルカリ性水溶液若しくは酸性水溶液で抽出し、エタノール若しくは含水エタノールで処理、若しくは酵素処理した後エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Streptococcus zooepidemicus</i>) の培養液を、冷時～温時、除菌し、エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたものである。成分はヒアルロン酸である。	製造用剤
250	微結晶セルロース (バルブから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	バルブから得られた、結晶セルロースを主成分とするものである。乾燥物及び含水物がある。	製造用剤
251	微小繊維状セルロース (バルブ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	バルブ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものである。	増粘安定剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
252	L-ヒステジン		ヒステジン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-ヒステジンである。	調味料 強化剤
253	ビートレッド (ビートの根から得られた、イソペタニン及びペタニンを主成分とするものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	ビート (<i>Beta vulgaris</i> Linné) の根から得られた、イソペタニン及びペタニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
254	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	ゼラチン等を、加水分解し、分離して得られたものである。主成分はL-ヒドロキシプロリンである。	調味料 強化剤
255	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イソクロロゲン酸及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE) の種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロロゲン酸及びクロロゲン酸である。	酸化防止剤
256	ひる石		不溶性銻物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗浄した後、乾燥して得られたものである。主成分はケイ酸塩である。	製造用剤
257	ファセラン (フルセラリアの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (<i>Furcellaria fastigiata</i> HUD.) の全藻より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
258	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	酵母 (<i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液より、室温時アセトン、エタノール、含水エタノール、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はアスタキサンチンである。橙～赤色を呈する。	着色料
259	フィシン	ファイシン		クワ科イチジク (<i>Ficus carica</i> LINNE) 又はクワ科ヒゴ (<i>Ficus glabrata</i> H.B. et K.) の樹液を、乾燥したもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。成分はフィシンである。	酵素
260	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i>) の培養液より水で抽出し、濃縮して得られたものである。	酵素
261	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Orzyza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸である。	酸味料 製造用剤
262	フィチン (抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸マグネシウムを主成分とするものをいう。)		フィチン	イネ科イネ (<i>Orzyza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水で抽出して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸マグネシウムである。	製造用剤
263	フェリチン		鉄たん白 鉄たん白質	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の脾臓より、熱時水で抽出し、塩析法で分離し、膜ろ過により得られたものである。成分はフェリチンである。	強化剤
264	フェルラ酸			イネ科イネ (<i>Orzyza sativa</i> LINNE) の糠より得られた米糠油を、室温時弱アルカリ性下で含水エタノール及びヘキサンで分配した後、含水エタノール画分に得られたγ-オリザノールを、加圧下熱時硫酸で加水分解し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Pseudomonas</i>) を、フトモモ科チヨウジノキ (<i>Syzygium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ及び葉より水蒸気蒸留で得られた丁子油、又は丁子油から精製して得られたオイゲノールを含む培養液で培養し、その培養液を、分離、精製して得られたものである。成分はフェルラ酸である。	酸化防止剤
265	フクロノリ抽出物 (フクロノリの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物		フクロノリ (<i>Gloiopeletis furcata</i> J. Agardh) の全藻から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
266	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付近の留分である。	製造用剤
267	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、アントシアニンを主成分とするものをいう。)	エノシアニン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> Linné) 又はブドウ (<i>Vitis vinifera</i> Linné) の果皮から得られた、アントシアニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
268	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、ポリフェノールを主成分とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮搾粕より、室温時～微温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はポリフェノールである。	製造用剤
269	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子から得られた、プロアントシアニジンを主成分とするものをいう。)		プロアントシアニジン	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の種子より、熱時水、温時エタノール若しくは室温時アセトンで抽出したものより得られたもの、又はこの抽出物を、酵母を用いて発酵処理したものより得られたもの、若しくはタンナーゼにより加水分解処理したものより得られたものである。主成分はプロアントシアニジンである。	酸化防止剤 製造用剤
270	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られた、ペリアンドリンを主成分とするものをいう。)	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (<i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したものより得られたものである。甘味成分はペリアンドリンである。	甘味料
271	フルクトシルトランスフェラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium roqueforti</i>) 又は細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたものである。	酵素

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
272	ブルナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Klebsiella</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもので、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
273	ブルラン			糸状菌 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。成分はブルランである。	増粘安定剤 製造用剤
274	プロテアーゼ	たん白分解酵素		動物、魚類若しくは甲殻類の筋肉若しくは臓器より、冷時～温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus saitoi</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Monascus pilosus</i> , <i>Monascus purpureus</i> , <i>Mucor circinelloides</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor miehei</i> , <i>Mucor rouxii</i> , <i>Penicillium citrinum</i> , <i>Penicillium dupontii</i> , <i>Rhizomucor miehei</i> , <i>Rhizopus chinensis</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus coagulans</i> J4, <i>Bacillus lentus</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus polymixa</i> , <i>Bacillus stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Bacillus thermoproteolyticus</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時～室温時樹脂精製して得られたもの、若しくはこれより、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの若しくは硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
275	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸点付近の留分である。	製造用剤
276	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)			ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤
277	ブロメリン	ブロメリン		パイナップル (<i>Ananas comosus</i> Merrill) の果実又は根茎より得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素
278	L-プロリン		プロリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-プロリンである。	調味料
279	分別レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。	乳化剤
280	粉末セルロース (パルプを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。)		セルロース	パルプを分解して得られた、セルロースを主成分とするものである。	製造用剤
281	粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。	ガムベース
282	ベカンナツ色素 (ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン (<i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。	着色料
283	ヘキサン			主としてn-ヘキサン (C ₆ H ₁₄) を含む。	製造用剤
284	ベクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus alliaceus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus japonicus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Aspergillus usami</i> , <i>Rhizopus oryzae</i> , <i>Trichoderma</i>)、細菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>) 若しくは酵母 (<i>Trichosporon</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
285	ベクテン			かんきつ類、リンゴ等から得られた、部分的にメチルエステル化されたポリガラクトuron酸などの水溶性多糖類を成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。	増粘安定剤
286	ベクテン分解物 (「ベクテン」から得られた、ガラクトuron酸を主成分とするものをいう。)		分解ベクテン	「ベクテン」を、酵素で分解して得られたものである。主成分はガラクトuron酸である。	保存料
287	ヘゴ・イチョウ抽出物 (イチョウ及びヘゴの葉から抽出して得られたものをいう。)			ヘゴ科ヘゴ (<i>Cyathea fauriei</i> COPEL.) 及びイチョウ科イチョウ (<i>Ginkgo biloba</i> LINNE) の葉を9:1の比率で混合し、熱時水で抽出して得られたものである。	酸化防止剤
288	ヘスベリジナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
289	ヘスペリジン	ビタミンP		柑橘類の果皮、果汁又は種子より、室温時アルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。成分はヘスペリジンである。	強化剤
290	ベタイン			テンサイ (<i>Beta vulgaris</i> Linné) の糖蜜より、分離して得られたものである。成分はベタインである。	調味料
291	ベニコウジ黄色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、キサントモナシン類を主成分とするものをいう。)	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	子のう菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus purpureus</i> WENT.) の培養液を乾燥し、粉碎したものであり、微温時弱塩酸性エタノールで抽出し、中和して得られたものである。主色素はキサントモナシン類である。黄色を呈する。	着色料
292	ベニコウジ色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、アンカフラビン及びモナスコルブリンを主成分とするものをいう。)	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	ベニコウジカビ (<i>Monascus pilosus</i> 又は <i>Monascus purpureus</i>) の培養液から得られた、アンカフラビン類及びモナスコルブリン類を主成分とするものである。	着色料
293	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタミンを主成分とするものをいう。)	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linné) の花から得られた、カルタミンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
294	ベニバナ黄色素 (ベニバナの花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものをいう。)	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linné) の花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
295	ベネズエラチクル (ベネズエラチクルの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	カプーレ		アカテツ科ベネズエラチクル (<i>Manilkara williamsii</i> STANDL.) の幹枝より得られるラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
296	ペプシン			動物又は魚類から得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素
297	ヘプタン			石油成分中、n-ヘプタンの沸点付近の留分である。	製造用剤
298	ペプチダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Lactococcus lactis</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、若しくはこれより、冷時エタノールで処理して得られたもの、又は培養液を固液分離、濃縮、ろ過して得られたものである。	酵素
299	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	ヘマトコッカス (<i>Haematococcus</i> spp.) の全藻から得られた、アスタキサンチン類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	着色料
300	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus usamii</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>) 若しくは担子菌 (<i>Corticium</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたもの、又は培養液を固液分離、濃縮、ろ過して得られたものである。	酵素
301	ヘム鉄			ヘモグロビンをタンパク分解酵素で処理したものであり、分離して得られたものである。主成分はヘム鉄である。	強化剤
302	ヘリウム			² He	製造用剤
303	ベントナイト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘して得られたベントナイトを乾燥して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤
304	ホスホジエステラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium citrinum</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素
305	ホスホリパーゼ	ホスファターゼ		動物のすい臓若しくはアブラナ科キャベツ (<i>Brassica oleracea</i> LINNE) より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus niger</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>)、放線菌 (<i>Actinomadura</i> , <i>Nocardopsis</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はこれより含水エタノール若しくは含水アセトンで処理して得られたもの、樹脂精製後、アルカリ性水溶液で処理したものである。	酵素
306	没食子酸			ウルシ科ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> LINNE) に発生する五倍子、フナ科 (<i>Quercus infectoria</i> OIIV.) に発生する没食子より、水、エタノール又は有機溶剤で抽出したタンニン、又はマメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOLINA) KUNTZE) の実の夾より、温時水で抽出したタンニンを、アルカリ又は酵素 (タンナーゼ) により加水分解して得られたものである。成分は没食子酸である。	酸化防止剤
307	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス		ツゲ科ホホバ (<i>Simmondsia californica</i> NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得られた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸イコセニルである。	ガムベース

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
308	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Coriolus</i>) 若しくは担子菌 (<i>Cyathus</i> , <i>Polyporus cinereus</i> , <i>Pycnonorus coccineus</i> , <i>Polyporus versicolor</i> , <i>Trametes</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、除菌後、冷時含水エタノールで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素
309	ε-ポリリジン	ε-ポリリジン	ポリリジン	放線菌 (<i>Streptomyces albulus</i>) の培養液より、イオン交換樹脂を用いて吸着、分離して得られたものである。成分はε-ポリリジンである。デキストリンを含むことがある。	保存料
310	マイクロクリスタリンワックス	マイクロクリスタリンワックス		石油の減圧蒸留の残渣油又は重質留出油から得られた固形の炭化水素の混合物で、主として分枝状及び直鎖状の飽和炭化水素からなる。	ガムベース
311	マクロホモブシスガム (マクロホモブシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモブシス多糖類		マクロホモブシス属菌 (<i>Macrophomopsis (Fusicoccum)</i>) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
312	マステック (ヨウニウコウの分泌液から得られた、マステカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			ウルシ科ヨウニウコウ (<i>Pistacia lentiscus</i> LINNE) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分はマステカジエノン酸である。	ガムベース
313	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドバチョコレート (<i>Manilkara solimoensis</i> GILLY.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
314	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドババラタ (<i>Manilkara huberi</i> (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース
315	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 マリーゴールド	マリーゴールド (<i>Tagetes patula</i> Linné) 若しくは <i>Tagetes erecta</i> Linné 又はそれらの種間雑種の花から得られた、キサントフィルを主成分とするものである。	着色料
316	マルトースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リゾチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	酵素
317	マルトリオヒドローラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Penicillium</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus subtilis</i> , <i>Microbacterium</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌した後、濃縮して得られたものである。	酵素
318	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca		強化剤
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。	
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分はリン酸カルシウムである。	
	サンゴ未焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イサンゴ目 (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。	
	真珠層未焼成カルシウム		真珠層カルシウム	ウグイスガイ科アコヤガイ (<i>Pinetada fucata</i>) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。	
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。	
319	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、d-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E	植物性油脂から得られた、d-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤
320	ミツロウ (ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ベースワックス		ミツバチ (<i>Apis</i> spp.) の巣から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤
321	ミルラ (ボツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		カンラン科ボツヤク (<i>Commiphora mukul</i> ENGL.) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、室温時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。成分としてコミホールを含む。	ガムベース
322	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニジンシルグルコシド及びペオニジンシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> Poiret) の塊根から得られた、シアニジンシルグルコシド及びペオニジンシルグルコシドを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
323	ムラサキトウモロコシ色素 (トウモロコシの種子から得られた、シアニジン-3-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン	トウモロコシ (<i>Zea mays</i> Linné) の種子から得られた、シアニジン-3-グルコシドを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。	着色料
324	ムラサキヤマイモ色素 (ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ 野菜色素	ヤマノイモ科ヤマイモ (<i>Dioscorea alata</i> LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンシルグルコシドである。紫赤色を呈する。	着色料

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
325	ムラミダーゼ			放線菌 (<i>Actinomycetes, Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、冷時～室温時濃縮し、冷時含水エタノールで抽出して得られたものである。	酵素
326	メナキノン (抽出物) (アルトロバクターの培養液から得られた、メナキノン-4を主成分とするものをいう。)	ビタミンK ₂ (抽出物)	ビタミンK ₂ ビタミンK V.K ₂ V.K メナキノン	アルトロバクター属菌 (<i>Arthrobacter nicotianae</i>) の培養液から得られた、メナキノン-4を主成分とするものである。	強化剤
327	メバロン酸			酵母 (<i>Saccharomycopsis fibuligera</i>) によるコースターブリーカー又はカゼイン由来のペプトンを主原料とする発酵培養液より、有機溶剤で抽出して得られたものである。成分はメバロン酸である。	製造用剤
328	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)			フトモモ科メラロイカ (<i>Melaleuca alternifolia</i> CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたものである。成分は精油 (α-テルピネン及びγ-テルピネン等) である。	酸化防止剤
329	モウソウチク乾留物 (モウソウチクの茎を乾留して得られたものをいう。)		竹乾留物	イネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocvcla</i> MITF.) の茎をチップ状にしたものを、減圧加熱下で乾留したのより得られたものである。	製造用剤
330	モウソウチク抽出物 (モウソウチクの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノン を主成分とするものをいう。)			イネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocvcla</i> MITF.) の茎の表皮を、粉砕したのより、微温時エタノールで抽出して得られたものである。成分として2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを含む。	製造用剤
331	木材チップ (ハシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られたものをいう。)	シュベアーネ		カバノキ科ハシバミ (<i>Corvulus heterophylla</i> FISCHER var. <i>thunbergii</i> BLUME) 又はブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) の幹枝を熱水殺菌したものを、粉砕して得られたものである。	製造用剤
332	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)			イネ科マダケ (<i>Phyllostachys bambusoides</i> SIEB. et ZUCC.) 若しくはイネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocvcla</i> MITF.) の茎又はカバノキ科シラカバ (<i>Betula platyphylia</i> SUKAT. var. <i>japonica</i> HARA)、チョウセンマツ (<i>Pinus koraiensis</i> SIEB. et ZUCC.)、ブナ科ウバメガシ (<i>Quercus phylliraeoides</i>) 等の幹枝又は種子を、炭化して得られたものである。	製造用剤
333	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウ	植物ワックス	キクウルシ科ハゼノキ (<i>Rhus succedanea</i> LINNE) の果実より、融解、さらしたものより得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。	カムベース
334	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) 等の幹枝を、灰化して得られたものである。	製造用剤
335	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME)、クスノキ科クスノキ (<i>Cinnamomum Camphora</i> SIEB.) 等の幹枝を灰化して得られた灰化物を、精製して得られたものである。	製造用剤
336	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ピーチガム	バラ科モモ (<i>Prunus persica</i> BATSCH) の幹枝の樹脂成分を、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
337	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			ヤマモモ (<i>Myrica rubra</i> Siebold et Zuccarini) の果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものである。主成分はミリストリンである。	酸化防止剤
338	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレセンス又はユッカシジゲラの全草から得られた、サポニン を主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	ユッカ・ブレビフォリア (<i>Yucca brevifolia</i> Engelman) 又はユッカ・シジゲラ (<i>Yucca schidigera</i> Roetzl ex Ortgies) の全草から得られた、サポニンを主成分とするものである。	乳化剤 製造用剤
339	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	ラカンカ (<i>Siraitia grosevenorii</i> C. Jeffrey ex A. M. Lu & Zhi Y. Zhang (<i>Momordica grosvenori</i> Swingle)) の果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものである。	甘味料
340	ラクトパーオキシダーゼ			脱脂生乳又は乳清より、イオン交換樹脂で分離して得られたものである。	酵素
341	ラクトフェリン濃縮物 (ほ乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	ほ乳類の乳を脱脂分離したの又は乳清より、精製し、濃縮して得られたものである。主成分は、ラクトフェリンである。	製造用剤
342	ラック色素 (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものをいう。)	ラッカイン酸	ラック	ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> spp.) の分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものである。	着色料
343	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものである。	カムベース 光沢剤
344	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	スフィンゴモナス属菌 (<i>Sphingomonas</i> sp.) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤
345	L-ラムノース		ラムノース	「ルチン (抽出物)」又はミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) 若しくはミカン科ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i> MARCOV.) の果皮、樹皮若しくは花に含まれる配糖体、又は大豆油、菜種油若しくはコーン油を発酵、濃縮分離して得られたものを、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-ラムノースである。	甘味料
346	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤
347	L-リジン	L-リジン	リジン リジン	糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-リジンである。	調味料 強化剤

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
348	リゾチーム	卵白リゾチーム		卵白より、アルカリ性水溶液及び食塩水で処理し、樹脂精製して得られたもの、又は樹脂処理若しくは加塩処理した後、カラム精製若しくは再結晶により得られたもので、細菌の細胞壁物質を溶解する酵素である。	酵素
349	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	動物若しくは魚類の臓器、又は動物の舌下部より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの又は糸状菌 (<i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Aspergillus usamii</i> , <i>Geotrichum candidum</i> , <i>Humicola</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor miehei</i> , <i>Penicillium camembertii</i> , <i>Penicillium chrysogenum</i> , <i>Penicillium roquefortii</i> , <i>Rhizomucor miehei</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus japonicus</i> , <i>Rhizopus miehei</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Chromobacterium viscosum</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia marcescens</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はエタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	酵素
350	リボキシゲナーゼ	リボキシダーゼ		植物油粕より、又は糸状菌 (<i>Rhizopus</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素
351	D-リボース		リボース	グラム陽性細菌 (<i>Bacillus pumilus</i> 又は <i>Bacillus subtilis</i>) によるD-グルコースの発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はD-リボースである。	甘味料
352	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイト	パラフィン	石油から得た炭化水素類の混合物である。	製造用剤
353	リンターセルロース (ワタの単毛から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	アオイ科ワタ (<i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルロースである。	製造用剤
354	ルチン酵素分解物 (「ルチン(抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	ルチン(抽出物)(アズキ(<i>Vigna angularis</i> Ohwi et H. Ohashi)の全草、エンジュ(<i>Sophora japonica</i> Linné)のつぼみ若しくは花又はソバ(<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench)の全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)を酵素処理した後、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。	酸化防止剤
355	ルチン(抽出物) (アズキの全草、エンジュのつぼみ若しくは花又はソバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)				酸化防止剤 着色料
	エンジュ抽出物			ルチン(抽出物)のうちエンジュ(<i>Sophora japonica</i> Linné)のつぼみ又は花より、水、エタノール又はメタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主成分はルチンである。	
	アズキ全草抽出物			マメ科アズキ(<i>Azukia angularis</i> OHWI)の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。	
	ソバ全草抽出物			タデ科ソバ(<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH)の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。	
356	ルテニウム			⁹⁸ Ru, ⁹⁹ Ru, ¹⁰⁰ Ru, ¹⁰¹ Ru, ¹⁰² Ru, ¹⁰⁴ Ru	製造用剤
357	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ(<i>Ganoderma lucidum</i> KARST.)の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。	苦味料等
358	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ(<i>Brosimum utile</i> (H.B.K) PITT.)の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース
359	レバン (枯草菌の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	フラクタン		枯草菌(<i>Bacillus subtilis</i> (EHR.) COHN)によるショ糖又はラフィノースの発酵培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤
360	レンネット	キモシン レンニン		反すう動物の第四胃より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、又は酵母菌(<i>Kluyveromyces lactis</i>)、糸状菌(<i>Mucor miehei</i> , <i>Mucor pusillus</i> LINDT, <i>Mucor</i> spp., <i>Rhizomucor miehei</i>)、担子菌(<i>Irpex lacteus</i>)若しくは細菌(<i>Bacillus cereus</i> , <i>Cryphonectria parasitica</i> , <i>Escherichia coli</i> K-12等)の培養液より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、室温時濃縮したもの、又は、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素
361	L-ロイシン		ロイシン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵法により得られたものより、分離して得られたものである。成分はL-ロイシンである。	調味料 強化剤
362	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド(<i>Haematoxylon campechianum</i>)の心材より、熱時水で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。	着色料
363	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセター及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属(<i>Sideroxylon</i>)の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものより得られたものである。主成分はアミリンアセター及びポリイソブレンである。	ガムベース
364	ロシン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		マツ科マツ(<i>Pinus palustris</i> MILL.)の樹皮の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去して得られたものである。主構成成分はアビエチン酸である。	ガムベース

既存添加物名簿収載品目リスト

最終改正 平成26年1月30日

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途
	名称	別名			
365	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルノシン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ (<i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド (ロスマノール、カルノソール及びカルノシン酸等) である。	酸化防止剤

備考
Aureobasidium cultured solution
Agarase
Actinidine
Agrobacterium succinoglycan
Acyase
Ascorbate oxidase
L-Asparagine
L-Aspartic acid
Aspergillus terreus glycoprotein
α -Acetolactate decarboxylase
5'-Adenylic acid
Annatto extract
Linseed gum
Aminopeptidase
α -Amylase
β -Amylase
L-Alanine
Gum Arabic Arabic gum Acacia gum
Arabino galactan
L-Arabinose

備考
L-Arginine
Alginic acid
Alginate lyase
Aluminium
Anthocyanase
Isoamylase
Iso- α -bitter acid
Isomaltodextranase
Itaconic acid
Rice straw ash extract
Inulinase
Inositol
Invertase
Welan gum
Turmeric oleoresin Curcumin
Urushi Wax
Urease
Exomaltotetrahydrolase
Esterase
Elemi resin
Sodium chloride-decreased brine (saline lake)
Ozokerite
Ozone
Oligogalacturonic acid

備考
γ-Oryzanol
Oregano extract
Orange colour
Seaweed ash extract
Kaolin
Cacao colour
Japanese persimmon colour
Granite porphyry
Cassia gum
Catalase
Active carbon
Activated acid clay
Gum ghatti
Catechin
Curdian
Caffeine (extract)

備考
Carrageenan
Semirefined carrageenan Processed eucheuma algae Processed red algae
Purified carrageenan Refined carrageenan
Powdered red algae
α -Galactosidase
β -Galactosidase (Lactase)
Mustard extract
Caramel I (plain)
Caramel II (caustic sulfite process)
Caramel III (ammonia process)
Caramel IV (sulfite ammonia process)
Karaya gum
Carnauba wax Brazil wax
Carboxypeptidase
Carob germ colour
Carob bean gum
Rumput roman extract

備考
Licorice extract
Licorice oil extract
Candelilla wax
Xanthan gum
Xylanase
D-Xylose
Chitinase
Chitin
Chitosanase
Chitosan
Redbark cinchona extract
Phellodendron bark extract
Fish scale foil
Quillaja extract Quillaja extract
Gold
Silver
Guar gum
Enzymatically hydrolyzed guar gum
Guaiac resin
Guajac resin (extract)
Quercetin

備考
Gardenia blue
Gardenia red
Gardenia yellow
Gutta hang kang
Gutta percha
Cristobalite
Glucanase
Glucoamylase
Glucosamine
α -Glucosidase
β -Glucosidase
α -Glucosyltransferase 4- α -Glucanotransferase 6- α -Glucanotransferase
α -Glucosyltransferase treated stevia
Glucose isomerase

備考
Glucose oxidase
Glutaminase
L-Glutamine
Grapefruit seed extract
Kooroo colour Matsudai colourr
Clove extract
Chlorophylline
Chlorophyll
Smoke flavourings
Wood vinegar Pyroligneous acid Liquid smoke
Enzymatically modified isoquercitrin
Enzymatically modified naringin
Enzymatically modified hesperidin
Enzymatically modified rutin (extract)
Enzymatically modified lecithin
Enzymatically hydrolyzed licorice extract
Enzymatically decomposed apple extract

備考
Enzymatically decomposed lecithin
Yeast cell wall
Kaoliang colour
Cochineal extract
Bone charcoal
Bone carbon black
Sesame seed oil unsaponified matter
Sesame straw ash extract
Rubber
Resin of depolymerized natural rubber
Rice bran oil extract
Enzymatically decomposed rice bran
Rice bran wax
Psyllium seed gum
Cane wax
Artemisia sphaerocephala seed gum Artemisia seed gum
Acid clay
Acid phosphatase
Oxygen
Shea nut colour
Cyanocobalamin Vitamin B ₁₂
Shellac

備考
White shella
Purified shellac
Shellac wax
Gellan gum
Jelutong
Cyclodextrin
Cyclodextrin glucanotransferase
L-Cystine
Perilla extract
Sandalwood red
5'-Cytidylic acid
Jamaica quassia extract
Ginger extract
卵殻焼成カルシウム
Calcinated sea urchin shell calcium
Calcinated shell calcium
Calcinated bone calcium
Calcinated coral calcium
Tricalcium phosphate
Calcinated eggshell calcium
Vegetable sterol
Vegetable carbon black
Vegetable lecithin

備考
Milt protein
Hydrogen
Stevia extract
Powdered stevia
Spirulina colour
Sphingolipid
Quicklime
Essential oil-removed fennel extract
Horseradish extract
Zein
Zeolite
Sage extract
Sepiolite
L-Serine
Cellulase
Crude potassium chloride (sea water)
Crude magnesium chloride (sea water)
Buckwheat ash extract
Sorva Leche caspi
Sorvinha

備考
Soybean saponin
Thaumatococin
Taurine (extract)
Onion colour
Tamarind colour
Tamarind seed gum
Tara gum
Talc
Powdered bile
Amino acid-sugar reaction product
Tannase
Tannin (extract)
Tannin of persimmon
Vegetable tannin
Tannin of silver wattle
Chicle
Chiquibul
Crown gum
Nispero
Nitrogen
Tea dry distillate
Tea extract
Chilte
L-Tyrosine
Tunu
Thujaplicin (extract)
Hinokitiol (extract)
5'-Deaminase

備考
Depolymerized natural rubber
Theobromine
Dextranase
Dextran
Iron
Dunaliella carotene
Copper
Paprika colour
Capsicum water-soluble extract
Cholesterol
Tocotrienol
d- α -Tocopherol
d- γ -Tocopherol
d- δ -Tocopherol
Tomato colour Tomato lycopene
Tragacanth gum
Transglucosidase
Transglutaminase
Trypsin
Trehalose
Trehalose phosphorylase

備考
Tororoaoi
Bacillus natto gum
Petroleum naphtha
Coffee bean extract
Naringinase
Naringin
Niger gutta
Absinth extract
Nickel
Carrot carotene
Roasted rice bran extract
Roasted soybean extract
Peroxidase
Platinum
Papain
Palm oil carotene
Perlite
Palladium
Paraffin wax
Pancreatin
Hyaluronic acid
Microcrystalline cellulose
Microfibrillated cellulose

備考
L-Histidine
Beet red
L-Hydroxyproline
Sunflower seed extract
Vermiculite
Furcellaran
Phaffia colour
Ficin
Phytase
Phytic acid
Phytin (extract)
Ferritin
Ferulic acid
Fukuronori extract
Butane
Grape skin colour Grape skin extract
Grape skin-derived substance
Grape seed extract
Brazilian licorice extract
Fructosyl transferase

備考
Pullulanase
Pullulan
Protease
Propane
Propolis extract
Bromelain
L-Proline
Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol
Powdered cellulose
Powdered rice hulls
Pecan nut colour
Hexane
Pectinase
Pectin
Pectin digests
Hego-Ginkgo leaf extract
Hesperidinase

備考
Hesperidin Vitamin P
Betaine
Monascus yellow
Monascus colour
Carthamus red
Carthamus yellow
Venezuelan chicle
Pepsin
Heptane
Peptidase
Haematococcus algae colour
Hemicellulase
Heme iron
Helium
Bentonite
Phosphodiesterase
Phospholipase
Gallic acid
Jojoba wax

備考
Polyphenol oxidase
ϵ -Polylysine
Microcrystalline wax
Macrophomopsis gum
Mastic gum
Massaranduba chocolate
Massaranduba balata
Marigold colour
Maltose phosphorylase
Maltotriohydrolase
Non-calcinated calcium
Non-calcinated shell calcium
Non-calcinated bone calcium
Non-calcinated coral calcium
Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium
Non-calcinated eggshell calcium
Mixed tocopherols
Bees wax
Myrrh
Purple sweet potato colour
Purple corn colour
Purple yam colour

備考
Muramidase
Menaquinone (extract) Vitamin K ₂ (extract)
Mevalonic acid
Melaleuca oil
Mousouchiku dry distillate
Mousouchiku extract
Wood chip
Charcoal
Japan wax
Timber ash
Timber ash extract
Peach gum
Chinese bayberry extract
Yucca foam extract Yucca joshua tree
Rakanka extract
Lactoperoxidase
Lactoferrin concentrates
Lac colour
Lanolin
Rhamsan gum
L-Rhamnose
Yolk lecithin
L-Lysine

備考
Lysozyme
Lipase
Lipoxygenase
D-Ribose
Liquid paraffin
Linter cellulose
Enzymatically decomposed rutin
Rutin (extract)
Enju extract Japanese pagoda tree extract
Azuki extract
Buckwheat extract
Ruthenium
Mannentake extract
Leche de vaca
Levan
Rennet
L-Leucine
Logwood colour
Rosidinha
Rosin

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団

最終改正 平成26年1月30日

備考
Rosemary extract